TOPIC
特集――座談会
自転車環境新時代に
ＮＰＯビーンの果たすべき役割。

NPO BEEN通信

特定非営利活動法人 自転車環境創造ネットワーク

2017
夏季号
2017.6.30

第15期通常総会

大きな目標に向かって小さな第一歩

特定非営利活動法人 自転車環境創造ネットワーク 理事長　森山　功

6月5日　NPO法人自転車環境創造ネットワークの総会を関係各位の皆様のご協力を頂き全ての案件を審議、無事終了致しました。大きな目標に向かって小さな第一歩を踏み出した記念すべき日となり、心より厚く感謝申し上げます。

さて、今後2年間理事長職を務めるにあたり、会員の皆様にご理解とご協力頂きたいことを二つ述べさせて頂きます。

一つはこれまで先人が築き上げて来た駐輪場の運営を更に合理化し機能化して経営の安定化に務めて参ります。また、単なる自転車置き場から情報発信の場へと進化させて行きたいと願っています。この安定が無くして大きな次の目標に進むことは出来ません。目下渡辺副理事長中心に必死に取り組んでいるところです。

二つにはNPO本来の在るべき姿である“社会貢献”に力を注いで行きたいと思います。それは、“自転車環境の整備”という大きな目標に向かって進みます。皆さんからはドンキホーテと笑われています。曰く「それは国や県の仕事でしょう」「自転車産業が考える問題だ」と。国全体が考えなければいけない大きな問題を一小さな法人が夢を描くことは当に夢物語で、つい自分でも笑ってしまいます。しかし今回の総会は“小さな第一歩を踏み出す”チャンスを与えて頂いたものと受け止めて、新たな決意をしているところです。

このビーン通信発刊は今後の私たちの活動を社会に発信していく最も重要なツールと位置づけています。編集長に元毎日新聞記者倉嶋康氏を迎えることが出来ました。倉嶋氏は長野冬季オリンピックの長野市長の親書を米国のソルトレーク市に自転車とボートで届けたという実践の方で、自転車環境について深い理解をお持ちで、長野市を中心に13年余にわたり“みどりの自転車”を主宰してきました。その実践を踏まえ日本の在るべき自転車環境の改善に取り組んで頂くことになりました。

また日本はママチャリ王国でもあります。そして自転車に乗れない人は皆無に等しい国でもあり、総人口を上回る自転車の保有国でもあります。しかしたくさんの課題があります。その一つが自転車事故の急増です。車と同じく登録制にすべきだ。あるいは税を課しその財源を道路整備に充てよ等々議論百出です。私たちはどうすれば一番国民の生活にフィットするのか国民の世論を喚起していきたい。はたまた安全に自転車に乗るためのマナー教育や罰則強化も取り沙汰されています。これも大きな問題です。

かつて日本は自転車の生産、技術は世界の鑑たるものでした。しかし、いまやその面影は無惨という以外にありませんがまだ今なら修復が可能と思います。このことも視野に入れなければいけないと思います。

さて大風呂敷を広げるのはその位にして私たちは末吉さんというこの道のベテランを迎え、先ずは自転車のマナー教育から手がけていきたいと思います。

一人の人間が出来ることは限られています。自転車に関心をお持ちの皆様にこの運動に参加頂きたいと存じます。“目指せ！自転車王国オランダを抜け”と大きな目標に進んでいきたいと思います。

特集 ── 座談会

自転車環境新時代に NPOビーンの果たすべき役割

出席者　左から　渡辺　昭男（副理事長）、倉嶋　康（理事）、森山　功（理事長）

司会　6月5日にNPOビーンの第15期通常総会が無事終了しました。お疲れ様でした。16期目を迎える今年は、とくに自転車環境にとって大きな節目の年といえるのではないでしょうか。それは、本年5月1日に「自転車活用推進法」が施行されたことです。この法律の施行によって、自転車環境がどのように変わるのか、そしてNPOビーンの果たすべき役割と将来像について、森山理事長、渡辺副理事長、倉嶋理事の三人にお話しを伺いたいと思います。

森山理事長　総会はお疲れ様でした。いま、司会者から話しがありましたように、自転車活用推進法が施行されました。この法律ではキーワードとして、「環境」「健康」「災害」の3点があげられおり、今後さらなる自転車活用への期待が高まっています。自転車環境創造を理念にしているNPOビーンにとっても、大きな転換期になると思っています。

司会　活用推進法は国と自治体の役割分担を決めています。ハード面では主に自転車走行用の道路整備、ソフト面では自転車のルール、マナー教育などとともにシェアサイクルの普及が重点になると思いますが、これからNPOビーンとしてどのような点に力を入れていくべきでしょうか。

渡辺副理事長　活用推進法はまだ施行されたばかりですから、自治体が本格的に動きだすのは時間がかかると思います。私たちとしては、まず情報を掴んでおく必要があるということで、できることから取り組むことにしています。

駐輪場のあたらしいあり方について取り組みたい　（森山）

森山　道路整備などハード面は、これは自治体が主体となって進めることになるでしょう。副理事長から自治体が本格的に動くのはこれからだという発言がありましたが、私は、まずNPOビーンの柱である、駐輪場の新しいあり方について取り組みたいと考えます。

司会　駐輪場の新しいあり方とは、具体的にどういうことでしょうか。

森山　私は現状の駐輪場が、ただ自転車の置き場になっていることに、とてももったいないという気持を抱いています。たくさんの利用者が集まる場所ですから、まちのイベント情報を発信したり、地元の自転車店と提携して定期的に自転車の点検をする日を設けるなど、たのしくて明るい交流の場、自転車ステーション的な空間にならないかと思っています。

渡辺　そうなれば、いまはなんとなく暗いイメージの自転車駐輪場が、とても賑やかで、楽しい場所に変わりそうですね。

森山　NPOビーンは、駐輪場の運営に関して多くの経験を積み、メンテナンスなどへの対応能力も高いですから、まず足下を見つめ自分たちのできることから、きちんと自転車環境への改善に貢献していく姿勢を大切にしていくべきです。NPOビーンだからこそできる提案をしていくことが重要でしょう。そして、駐輪場の付加価値を高めることは、行政はもちろんのこと利用者の皆さんにも理解を得られることだと思います。

司会　駐輪場の運営管理は、NPOビーンがもっとも得意とする分野ですから、そこに注力していくことは重要ですね。倉嶋さんはサイクリストとして、海外でのツーリング体験も豊富とお聞きしています。また、長く勤務された松本市で自転車に関する活動を続けてこられたお立場から、活用推進法はどのように受け止めておられますか。

自転車活用の5Kを提案します　（倉嶋）

倉嶋理事　NPOビーンの活動内容に関しては、理事になってから日が浅いので、まだ十分に理解していない点があります。しかし、こと自転車活用に関しては、つねづね言いつづけてきたことがあります。

森山　功（もりやまいさお）
昭和13年熊本県生まれ。
中央大学卒
聖教新聞社入社、編集業務に従事
平成10年定年退職
平成17年NPOビーンに所属
平成25年より理事長職

司会　どのようなことでしょうか。

倉嶋　活用推進法では、理事長が指摘されたように、「環境」「健康」「災害」の3つのキーワードがあげられていますが、1998年米国ソルトレーク市を自転車で訪問したときに、市長にお会いして自転車活用の5つのメリットを提案したことがあります。それは、「環境」「健康」「交通」「観光」そして最後に「活性化」です。私は、これを自転車活用の5Kと呼んでいます。環境、健康は説明するまでもないことですが、交通問題の解消には自転車が有効あること、また観光客にとっても移動には自転車が便利です。そして、この4つのKがまち全体を元気にして、5番目のKである「活性化」につながるというわけです。

倉嶋　康（くらしまやすし）
昭和8年中国　北京生まれ
早稲田大学卒
毎日新聞東京本社入社
社会部キャップ　各県支局長
編集委員
スポーツニッポン新聞社顧問
各種団体役員　ジャーナリスト

司会　倉嶋理事の提案された自転車活用の5Kは、たしかにシャッタータウンになった中心市街の再生などにも、とても効果的ですね。松本市で実際にどのような提案をなさってこられたのか、お話しいただけますか。

倉嶋　松本市は城下町で、辻が多く自動車が走りにくいまちです。そこにこれから大型のショッピングモールが開店するので、自動車がますます増え、今から交通渋滞を心配する声があがっています。新聞社に勤務して松本にいた頃、松本城を中心にした半径2㎞には自家用車を入れず、公共交通を活用する。そして観光客の移動は主に自転車を利用するという、当時としてはかなり大胆な提案をしたことがあります。その時には実現しませんでしたが、いま松本市はその方向に動き始めているようです。

自転車のルール、マナー教育は早急に取り組むべき課題です　（渡辺）

司会　ハード面は行政が担うことになりますが、NPOビーンとしてソフト面の自転車のルール、マナー教育についてはどのような対応ができるでしょうか。

渡辺　自転車のルール、マナー教育は、活用推進法の重点項目になっています。自転車利用者が増えるの

は、たしかにいいことなのですが、その一方で自転車事故が社会問題になっています。これはこどもの頃から、ルール、マナー教育を学ぶ機会がないことに原因があるのだと思います。これから、もっと自転車が活用されることを考えると、ルール、マナー教育は、早急に取り組むべき課題でしょう。それについて、NPOビーンとしては、今年、杉並区の駐輪場運営による還元金で、区内の全小学校と幼稚園などに児童図書「わるいのはじてんしゃ？」の配布を提案してそれを実現しました。

司会　児童書の内容について、簡単にご紹介いただけますか。

渡辺　自転車に乗り始めたばかりの幼い兄弟が、ある日小さな事故をおこしてしまうのですが、交番のおまわりさんから幼いこどもでも事故について責任があるという指摘されます。遊びのつもりで乗っていても、自転車に乗る以上は、たとえ子どもでも責任を持たなければならないという、心構えの大切さを教えています。

小さい頃初めて自転車乗れたあの感動を大切に　（倉嶋）

倉嶋　自転車は気軽な乗り物ですが、ひとつ間違えると誰でも加害者にも被害者にもなり得る危険をはらんでいます。活用推進法で自転車の環境がよくなることはすばらしいけれど、行政指導が強くなると、将来、取り締まりがきびしくなって、その結果、自転車の利用者が少なくなるのではないかとちょっと心配しています。先ほど理事長の提案された駐輪場を楽しい場所にしたいという発想と同じように、自転車をもっと楽しい乗り物にしたいのが私の願いです。
NPOビーンとしては、行政にはなかなかできない、自転車の楽しさを広めるという姿勢でルール、マナー教育に取り組むのがいいのではないでしょうか。幼い頃、誰もが体験した初めて自転車に乗れたときのあの感動、そうした自転車への思いをいつまでも大切にしていきたいですね。

渡辺昭男（わたなべあきお）
昭和16年横浜市生まれ。
明治大学卒
横浜市役所に勤務
総務局市長室長などを経て青葉区長に就任。平成12年退職
介護設備会社、老人ホーム運営会社取締役。
平成21年NPOビーンに所属

司会　自転車活用推進法の重点策のひとつであるシェアサイクルですが、東京五輪・パラリンピックにむけて、東京都内の自治体ではシェアサイクルの導入が広がっています。NPOビーンとしては、どのように対応していきますか。

森山　千代田、港、中央、江東の4区の境を超えた相互乗り入れが、昨年2月にスタートして1年が過ぎましたが、利用者数が前年比の3倍も伸びており、まさにバス、電車につづく第三の公共交通としての定着が進みつつあるといえます。

渡辺　東京都内では、あらたに新宿区、文京区がシェアサイクルに参入し、6区で利用できるようになりました。その一方で、シェアサイクルの普及には、自転車をとめるポート用地の確保が課題となっています。いまは自治体とNTTドコモが運営主体となっていますが、事業としての成功の鍵は、より多くの民間企業の参加にあるのではないでしょうか。

司会　東京のように車が多くていつも道路が混み合っている都会では、環境、健康、観光はもちろん、シェアサイクルが新しいビジネスとして成長するポテンシャルが高いということでしょうか。

森山　その通りだと思います。先ほどの倉嶋理事の自転車活用の5Kのように、シェアサイクルの普及は、観光面はもちろん商店街などに賑わいをもたらすなど、活性化につながります。いわゆるワンコインビジネスのひとつとしてこれから急速に注目されるようになります。さらに、電動アシスト自転車で、まち乗りがもっと楽しくなれば、気軽で、便利な乗り物というだけではなく、生活全体を楽しくするファッションアイテムとして、定着するのは間違いありません。

渡辺　シェアサイクルに関しても、NPOビーンは少しずつですが動き始めています。観光地のレンタサイクルでは、小田原市のレッツ・バイク事業の実地見学、さらに都内で実施されているシェアサイクルの実情については、NTTドコモに取材するなど情報収集を行っています。

森山　シェアサイクルは、成長産業であることは間違いありません。ただし、まだまだ未知数な部分が多いことも事実です。だからといって手をこまねていることもできません。NPOビーンにとってもチャンスを活かしていくことが重要です。そのために、今の段階では渡辺副理事長のおっしゃるとおり、まずは、自治体がどのように動くのかを掴んで、そこにどのように関わることができるか、NPOという立場を活かして、いつでも提案できるよう準備を行っておくべきだと思います。

倉嶋　私は、長野市でいらなくなった自転車を緑色に塗り替え、“みどりの自転車”というレンタサイクルの活動をしてきました。松本市もこのノウハウを取り入れ民間が始めましたが、レンタルといっても無料ですから、商店の好意で店先に自転車を置かせていただくのです。お店にとってはそれほどメリットがありませんでした。しかし、利用する人がいればまちが元気になるのだから、それはいいことだと、お店からこころよく協力をいただいたときには、なるほど松本市は商人のまちだなと、感動したことを憶えています。こうした活動は、行政任せにするのではなく、市民と商店街などが主体となって進めていくことが重要であることを私は学びました。

森山　そうですね。なんでも行政行政と行政任せにするのではなく、NPOビーンとして日常的に自転車利用者のニーズをつかんで、求められていることをしっかり行政に提案していくことが大事だということですね。つぎの10年、15年とこれからも自転車環境創造に貢献していきましょう。

司会　一台一台は小さい乗り物である自転車が、暮らしを変え、まちを変えそして環境、社会、ビジネスまで変えていく。そんな時代が目の前に広がっているということが分かりました。東京五輪・パラリンピックで訪れる外国からの観光客に、自転車のまち東京をイメージづけるうえでも、ただ行政任せにするのではなく、民間活力と協働してNPOビーンがこれから自転車環境創造に貢献できることは、たくさんあるのではないでしょうか。本日はありがとうございました。
（平成29年6月20日）

自転車活用推進法とは

国と自治体が一体となって推進
自転車活用を推進するために、国と自治体の責務として「自転車活用推進計画」の作成を義務づけ、その重点策として14項目を挙げています。そのうちのおもな施策は以下の通りです。

- 自転車レーンなどの整備
- 自転車走行空間を確保するためにパーキングメーターの見直し
- シェアサイクル、レンタサイクルなど施設の整備
- 安全性の高い自転車の供給
- 情報通信技術による自転車の管理
- 自転車のルール、マナー教育
- 災害時の有効活用
- 自転車を活用した観光客の誘致

重点施策の中でも、道路交通法の改正によって、自転車は車両として車道の左側走行が原則となったため、車道に自転車レーン、また自転車専用道路を整備することが当面の急務となります。

自転車でアメリカ西部を走る ⑤

出水　豊

五輪環境親書を自然の力だけで米国ソルトレーク市まで届けてほしいと長野の組織委員会から頼まれた時、まず浮かんだのはリュックを背負って山道を歩く自分の姿だった。でも野宿するためにテントや飯盒が必要だろう。これは重い！

ではリヤカーでと思ったが、どこにも無い。田舎の農家などでも、とっくに処分してすべて機械化している。(もっとも後で通販などが洒落たリヤカーを売っていることを知ったが)。仮に見つかっても、首に日本手拭いを巻いて、麦わら帽子をかぶった爺さんがリヤカーを引いている姿なんて、どうにも格好悪い。

長野出発の雪の朝、電動を連ねて護衛と走る

最後に思いついたのが自転車だった。当時は信州に住んでいたので、恰好いいサイクルスーツにヘルメット姿の男女をよく見かけた。よし、これでいこうと知り合いの自転車店に駆け込んだ。

20代のころは仕事で毎日自転車に乗って山道も雪道も走り回ったが、その後はオートバイ一筋だった私にとって、店先に並んでいる自転車はどれもが目新しいものばかり。使用目的を聞いた若い主人は「豆腐屋や紙芝居屋が使う荷台の大きな」という注文に対して、憐れむような表情で首を横に振った。

ロード、マウンテン、タンデム・・・言葉そのものがすべて初耳。勧めに従って電動アシスト自転車に決めた。それも最初は「電気自転車だったらペダルを漕がないですむ」と信じたシロウトぶりだった。

幸い浜松のヤマハ本社が協力してくれ、売り出したばかりの新車を提供してくれた。これを使って長野市から清水市までを走ったが、力がいらず快適だった。でも電池の消耗が激しく、塩尻・諏訪間の峠と、山梨・静岡間の峠では電池切れで重い車体を押し歩きして死ぬような思いをした。

こうして長い道のりのうち日本国内コースをなんとか終え、太平洋をヨットと帆船で乗り越えてサンフランシスコに到着した。準備のため一旦日本に帰った時は一人前のサイクリストを自認し、『冒険者』に成長していた。次に控えるのが最終ステージで未知のネバダ砂漠。この走りに従者として同行する息子とともに国内各地を走って勘と脚力、そして度胸を鍛えた。

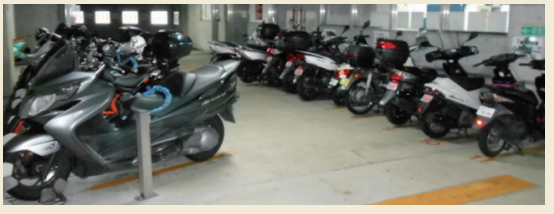
使ったのはクロスバイク。それも腹が出始めた私はドロップハンドルは使わないぞと注文も生意気になり、前輪はずしで輪行袋に愛車を入れて、東京、福島、三重、香川と縦横無尽に走り回った。　（つづく）

事務局便り　天気とバイクイン利用者

「今日は雨だから利用者が少ないだろう」という話を良くします。
果たしてそうなのか、白金高輪バイクインで、雨、気温、利用台数の関係を平成27年度で調べてみた。
月平均利用台数より上回るのが５月から10月で、この間の利用台数は月平均1000台を超えている。雨の日数は年間15日。５月から10月までは10日で１年の７割である。
「今日は雨だから・・・」の話と矛盾する。では気温はどうか？
東京の年間平均気温は16.4度。月平均気温と差を見てみると５月から10月は２度から11度上回っている。ちょうど利用台数の上回る時期と一致していた。利用する人は雨より気温に、敏感なのかもしれません。

最近は、天候にも恵まれ入庫台数も増え満車になる日も目立ちます。

●白金高輪バイクイン
白金高輪バイクインはバイク専用の駐車場で、東京メトロ南北線と都営三田線が停車する、白金高輪駅に隣接して1番出口横にある地下駐車場です。国道一号線の真下にあります。
収容台数は、定期利用61台・一時利用40台、合計101台で、24時間有人管理をしています。



■発行者：特定非営利活動法人　自転車環境創造ネットワーク（略称：NPO ビーン）
■住　所：〒108-0072　東京都港区白金２丁目地先　白金高輪バイクイン内
事務局：TEL.03-5793-4340　FAX.03-5793-4347　Homepage　http://bicycle-been.weebly.com